

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和6年6月7日（金）

### 2 確認箇所

4号機原子炉建屋西側（建屋間ギャップ端部止水対策原位置試験施工現場）（図1）

### 3 確認項目

建屋間ギャップ端部止水対策原位置試験施工の状況

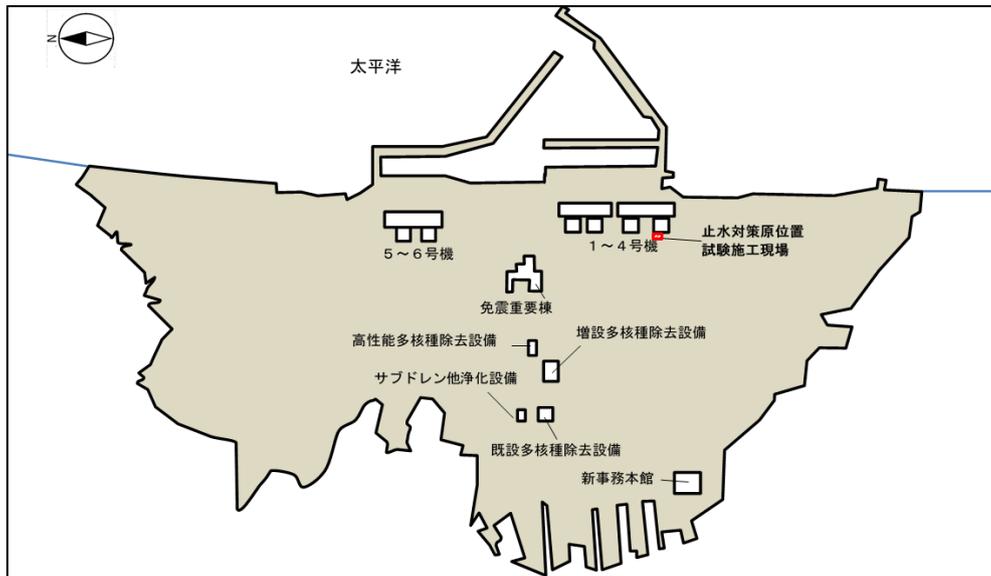
### 4 確認結果の概要

東京電力では、地下水バイパス・サブドレン・陸側遮水壁（凍土遮水壁）の維持管理運転、建屋屋根破損部補修及び建屋周辺のフェーシング等により建屋内への雨水や地下水の流入抑制を進めており、更なる流入抑制のため、地下水が流入する可能性がある建屋間ギャップ<sup>\*</sup>の端部止水対策を検討している。

昨年度に実施した5・6号機タービン建屋間及び5号機タービン建屋・原子炉建屋間のギャップにおける試験施工（[令和5年10月27日確認](#)）での知見を元に、より空間線量率が高い4号機原子炉建屋西側で試験施工が実施されていることから、状況を確認した。

- ・試験施工箇所に2階建ての仮設ハウスが設置されており、2階部分に設置されたボーリングマシンにより、削孔が進められていた。（写真1）
- ・仮設ハウスは被ばくを低減するための遮へいシートが設置されている他、遮熱シートで覆われており、熱中症予防対策がなされていた。（写真2）
- ・4号機原子炉建屋西側の道路に遠隔で指示ができるモニターカーが配備されており、さらなる被ばく低減対策がなされていた。（写真3）
- ・東京電力では、試験施工での知見を基に2025年末までに3号機建屋間ギャップ端部の止水工事を実施するとしている。

※建屋間ギャップ：原子炉建屋周辺の建屋同士を隣接して建設する際に生じる外壁間の隙間（50～100mm）のことである。建屋間ギャップ内には、先行建屋外壁に発泡ポリエチレンが設置されており、地下水が地盤側から建屋間ギャップ部に浸入すると配管等貫通部から建屋内に地下水が流入する可能性が考えられることから、建屋間ギャップ部の止水対策として、外壁端部の範囲をボーリングで削孔し、削孔箇所にモルタル等を打設して止水部を構築する工法が検討されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
試験施工場所周辺の状況



(写真1-2)  
試験施工場所の状況



(写真1-3)  
ボーリングマシン下部の状況



(写真1-4)  
ハウス内の資材の状況



(写真1-5)  
削孔に使用したビットの状況



(写真2-1)  
ハウス内部側面の状況



(写真 2 - 2)  
遮熱シートの状況



(写真 3 - 1)  
モニターカーの状況



(写真 3 - 2)  
モニターカー内部のモニターの状況  
(左：仮設ハウス内、右：削孔部)

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。